

クウェート科学研究所 (KISR) が 石油学会国際交流功績賞を受賞

JCCP 産油国協力事業のパートナーとして長年の協力関係にあるクウェート科学研究所が、このほど国際的に権威のある公益社団法人石油学会の平成 25 年度国際交流功績賞を受賞しました。その授賞理由は、石油学会が明らかにしたところによれば、下記のとおりです。

日本とクウェートが石油分野の関係強化の観点から実施している事業に、1993 年から毎年開催している「日本・クウェート合同セミナー」、1995 年から毎年実施している「産油国研究者の受入れ」があります。前者は KISR、国際石油交流センター、石油学会が共同開催する石油精製プロセスなどに関するセミナーで、両国の研究者による発表と議論を通じてクウェート石油産業の技術課題解決に大いに貢献しています。後者は産油国機関の推薦を受けた研究者が、わが国の大学・企業の研究所などに数ヵ月滞在して研修を行うもので、KISR からは毎年 2 名程度が参加しています。この他にも KISR は 2007 年以来、わが国から石油関連の研究者を招聘し、直接研究指導を受けています。

こうした KISR の実績はクウェート政府から高い評価を受けており、結果として、日本に対するクウェート政府からの高い評価に結びついていると言えます。KISR との連携で長年培った技術・人的交流の成果は、将来の両国間の友好関係のさらなる維持・発展につながると期待できます。

以上のように、KISR はわが国とクウェートとの技術および人的交流の中心として長年にわたり重要な役割を果たしてきており、その功績は国際交流賞を受賞するにふさわしいものと認められます。

これまでの国際交流賞の海外の受賞者は平成 19 年にサウジアラビア キングファハド石油鉱物資源大学学長カーレド・スルタン博士が国際交流功績賞、平成 21 年度にアブダビ首長国国営石油精製会社 TAKREER が団体として国際交流技術賞を受賞しています。

5 月 27 日の授賞式には KISR 総裁アル・ムタイリ博士 (HE. Dr. Naji Al-Mutairi) ご自身ご自身が出席し受賞されました。授賞式にはアブドゥルラフマーン アル・オタイビ駐日クウェート国大使もご出席いただきました。

(技術協力部 和田 貞男)



左より石油学会山田会長 (当時)、マラフィー KISR 石油リサーチセンター・エグゼクティブディレクター、アル・ムタイリ KISR 総裁、アル・オタイビ駐日クウェート国大使